

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 2 月 13 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/13 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約2.0 m ³ /h	18.5	105.7 kPa abs	A系: 0.00 Vol %
		給水系:約2.5 m ³ /h			B系: 0.00 vol %
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.6 m ³ /h	31.4	7.04 kPa g	A系: 0.04 Vol %
		給水系:約2.0 m ³ /h			B系: 0.04 vol %
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.6 m ³ /h	31.3	0.25 kPa g	A系: 0.18 vol %
		給水系:約1.9 m ³ /h			B系: 0.17 vol %

*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/13 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	10.0
2号機	循環冷却システム	運転中	11.4
3号機	循環冷却システム	運転中	9.1
4号機	循環冷却システム	運転中	21

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設 [プロセス主建屋]	2/12 11:02 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。なお、当該作業については、2月中旬まで、適宜、実施する予定。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (2/13 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	運転中	停止中	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/1/8～ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。
- ・H25/2/6 13:00 頃、3号機使用済燃料プール上部に残存する鉄骨トラス瓦礫の撤去作業を行っていたところ、油圧フォーク2台により吊り上げていた鉄骨トラス瓦礫が二つに破断した。破断した二つのトラス瓦礫は、油圧フォークで把持した状態であったが、破断した片側のトラス瓦礫が使用済燃料プール内に留まった。同日14:06 までに、二つのトラス瓦礫を油圧フォークで3号機原子炉建屋南側ヤードに移動した。その後、当該瓦礫撤去作業前に使用済燃料プールに存在していた燃料交換機マスト*と思われる瓦礫が、作業後の画像において確認できなかったことから、2/7 使用済燃料プール内に水没した可能性があると判断。2/13 10:36～14:24、水中カメラによる使用済燃料プール内の状態確認および燃料交換機マストと思われる瓦礫の状況について、調査を実施。調査の結果、大きさ・形状から燃料交換機マストと同定し、当該マストが使用済燃料貯蔵ラックおよびライナに直接接触していないことを確認。

※燃料交換機マスト:燃料集合体を移動する際に使用する掴み具を昇降するための伸縮性のポール(長さ:約5～23m、重さ:約1.5トン)

- ・H25/2/13 1号機トラス室調査を実施するにあたり、原子炉建屋1階の床穿孔作業を実施。作業は14日迄の予定。

以上